

策の徹底、延いては興亞國策の貫徹に協力しつつあるも、本島臺灣に於ては行政部關係の特殊保健衛生機關皆無にして其の機能は擧げて本熱帯醫學研究所に委ねられたる現状なり。然るに本研究所は創設日尙淺く、所内各科研究室の陣容さへ未だに充實を要するもの多しと雖も就中時局の最も要望する前記人口、體力、體育、民族衛生、移住衛生、疫學、醫療保健制度等行政部と密接なる關係を有し、當面及び永遠の國策の基礎たる可き調査研究を遂行すべき施設を有せず、茲に厚生醫學一科を新設し、衛生行政の實情にも通曉せる専門家を聘して、上記未着手の調査研究を行はしめ、併せて本所既設各科研究室の研究業績の實際的應用を促進し、以て本熱帯醫學研究所創設の目的を全からしめんとするものなり。

財團法人人口問題研究会主催第十二回人口問題同攻者會合の開催

財團法人人口問題研究会の主催になる第十二回人口問題同攻者會合は今般人口政策確立要綱の發表せられたるを機會として昭和三十五年内地人口一億の目標を中心論題として昭和十六年二月八日厚生省新館會議室に於て開催せられたが、講演後熱心なる質問もあり非常な盛會であつた。論題、講師及び講演題名を掲ぐれば次の如くである。

我國の將來人口——昭和三十五年内地人總人口一億に關聯して

講師及題名

昭和三十五年一億人口の根據——人口政策確立要綱

彙報

の目標 企畫院調査官 美濃口時次郎
我國人口の趨勢 人口問題研究所調査部長 經博 中川友長

一億人口の可能性 東京商科大学助教 小田橋貞壽
一億人口の生物學的基礎 厚生科學研究所教授 醫博 川上理一

美濃口調査官は本要綱設定に當り大和民族の老體化を防止し其の永遠の發展性を確保することを根本目標とせる點、特にソ聯邦等の隣邦諸國に對して其の増殖力の劣らざるものたるべき事を目標とせる點を純再生産率の數字等を擧げて解説、家と民族とを基礎とする世界觀の確立が根本前提たる所以を強調、中川博士は博士の計算になる我國將來人口推定の假定及結果を詳説し乍ら、出生率を昭和十年當時のものに引き上げて保持し、死亡率は今後二十年にして人口千に付十二程度迄引下げれば昭和三十五年一億の實現は可能なる所以を説明、特に人口政策は今日の歐洲諸國に見る如き人口停止或は減退状態に當面して初めて施行するに到つては殆んど效果なき事を強調して注目を惹いた。小田橋助教は今次の人口政策確立要綱中婚資貸付制度と女子就業の抑制方針とは特に農村に於て、又家族手當制度は特に都市に於いて效果大なるべきを豫想、ただ家族手當制度その他の方策も特に上層階級に屬する優秀家系者の子孫維持の爲には猶ほ不充分なるべきを指摘、民族の自覺を喚起する一方、廣義の社會經濟政策確立の必要を力説した。最後に川上博士は厚生科學

研究所内に於いて論議せられた我國將來人口推定の結果を紹介、その専門的立場よりする今後の研究方針の大綱について發表する所あつた。尙、四氏を通じて人口政策の要點は死亡の減少にあらず専ら出生の増加に重點を置くべきものなるを力説せる點特に注目を惹いた。

講演後參會者より種々活潑なる質問が行はれたが、特に那須皓博士が日滿支を通ずる内地人農業人口四割確保問題について、内地の農業人口が現在すでに飽和状態にある反面、將來滿洲國に於て收容せらるべき内地人農業人口は滿洲國自身の工業化に伴ひ内地都市人口の榮養源としては期待し難き點を指摘し、この點に更に充分研究され度き旨を發言、注目を惹いた。

中央農林協議會の東亞國土計畫要目の決定

中央農林協議會の國土計畫委員會に於ては東亞諸地域を通ずる綜合的國土計畫について昨夏決定せる「國土計畫基本要綱（本誌第一卷第六號所載）」に基き協議中であつたが、昭和十六年一月理事會に於て正式之を決定、同時に日本國土計畫機關設置に關する建議をも決定、内閣、企畫院、關係各省、對滿事務局、興亞院に之を提出した。

東亞計畫要目

第一 策定要領

一、大東亞諸地域の自然的並に社會的諸條件を考量して日・滿・蒙・支等各單位地域間に於ける人口並に施設の配分及び資源の利用開發計畫を策定する

こと而して右計畫に當りては廣く國防、經濟、文化等諸般の事項を併せ考慮すること

- 二、人口配分計畫は良質人口の増強を目標として之を策定すること、而して人口の配分は資源の賦存と不可分の關係にあるを以て人口配分計畫は之を資源の利用、開發計畫と關聯せしめて策定すること
- 三、人口配分計畫との關聯に於て文化、厚生計畫を策定すること
- 四、産業計畫は治水、利水計畫、動力計畫、交通通信計畫等との關聯に於て之を策定すること
- 五、産業計畫に於ては各種資源の綜合的利用開發を圖り諸地域間の一元的統合を期すると共に國土の荒廢並に洪水旱害の防除、水源の涵養等國土の保全、培養を十分考慮すること
- 六、産業計畫は大東亞共榮圈内に於て少くとも必要物資の自給自足を目標として之を策定すること
- 七、交通通信計畫は産業計畫に適應するの外大東亞共榮圈各般の紐帶として適合するやう策定すること

第二 策定事項

- 一、人口配分計畫
 - 二、産業配分計畫
 - イ、農業計畫
 - ロ、畜産計畫
 - ハ、林業計畫
 - ニ、水産計畫
 - ホ、鑛業計畫
 - ヘ、工業計畫
- 右産業計畫に於ては金融、交易等流通に關する諸

事項を考慮すると共に單位相互間に於ける交流計畫を併せ策定すること

- 三、治水、利水計畫
- 四、動力、熱源計畫
- 五、交通、通信計畫
- 六、文化、厚生計畫

第三 機關

東亞計畫の策定並に促進の爲め日・滿蒙・支等の官民合同による綜合的中樞機關を設置すること

日本國土計畫機關

- 一、國土計畫は内閣總理大臣の主管とし中央に國土計畫局を置き内地に在りては地方に支局を置くこと但し地方支局の管轄は現在の道府縣區域に依らず全國を適當の數區域に分ちて之を設け必要に應じ道府縣に分局を設くるものとす
- 二、内閣に國土計畫中央委員會を設置し中央計畫の策定並に實施に關する諮問機關たらしむること
- 三、各廳は國土計畫の策定に參畫すると共に其の所管に從ひ實施を掌ること
- 四、地方支局に國土計畫地方委員會を設置すること地方委員會は中央委員會に準ずるものとする
- 五、地方計畫は中央の示したる要綱に即應し之を策定するものとし中央の認可を受けたる上決定するものとする
- 六、國土計畫を促進する爲め中央並に地方(道府縣市町村を含む)に國土計畫協力體を置くものとし農林漁業に關しては農林漁業に關する中央及び地方團體を以て之に充つること

七、外地に付ては右に準じ適當なる機關を設くること

兒童母性研究會の第三回協議會の開催

兒童母性研究會に於ては昭和十六年二月十五日東京市麹町區法曹會館に於て第三回協議會を開催したが、その研究報告題名及び報告者氏名を掲ぐれば次の如くである。

研究報告

- 一、大賀研究所研究報告(報告者) 小山良修
- 一、偏食による第二肺動脈音の強盛
兒科診療第四卷第六號(昭和十三年六月)發表
- 二、副腎皮質ホルモンの研究
東京醫事新誌三〇九三號、三二三八號(昭和十三年、十四年)醫事公論一四八七號、一四八八號(昭和十六年)發表
- 三、腸内細菌叢に及ぼす牛酪乳の效果に就て(小谷英三)
兒科診療第六卷、第七卷(昭和十五年七月)發表
- 四、大豆を基礎とする哺育料に就て(井上敷平、田中振爾)
東京醫事新誌第三二四〇號(昭和十四年六月)發表
- 五、幼兒保健相談
- 六、腸管蠕動作用に對する補助營養品の影響
- 七、種類及大豆乳等の營養品を以て飼育せるマウスの瓦斯排泄量の變化と一般發育との關係に就て